



八女市立星野小学校 学校通信 平成29年6月30日

星のっ子だより

(文責 吉田)

はじめに

先日「星のっ子だより」の一読者より、次のような内容の便りをいただきました。内容は、毎回「星のっ子だより」を楽しみにしているが、文字が小さいので読むのに苦労している。文字を大きくして、A4の両面に印刷するなど工夫をお願いしたいということでした。お便りありがたく思います。確かにご年配の方々には見にくいだらうなどと反省しました。そこで今回より字を少し大きくし両面印刷で配布したいと思います。ご了承下さい。

星の話を聞きました

6月27日(火)の5校時に4・5・6年生は、星の話を聞く機会に恵まれました。といいますのは、国立研究開発法人「情報通信機構 鹿島宇宙技術センター」の宇宙研究室に所属する主任研究員の布施哲治様が「そよかぜ」で行われる全国規模の会合に来てあったのですが、「星野小学校で星の話をしたいと思いますが、いかがでしょうか」というコンタクトがありました。こういった全国で活躍されている方の話を聞く機会はめったにありませんのでお願いした次第です。布施さんは、時間の合間に来校され、分かりやすく星の画像などを示しながらお話しをして下さいました。その内容を簡単にいくつか紹介します。



① 夏の星座のさそり座の心臓部分のアンタレスの大きさは太陽の700倍、太陽は地球の大きさの109倍、アンタレスが明るく燃えるように見えるのは温度が低いためなど



② もうすぐたなばたですが、おりひめ（ベガ）とひこぼし（アルタイル）が電話をしたら届くまでどれくらいかかるか？ 答えは、15年だそうです。「もしもし」と電話をして返答が返ってくるのに30年、会話をしているといつの間にか年齢が進みますね。

③ 「なぜ、めい王星は惑星じゃないの」という小学生向けの本を出版されています。それに関連して、めい王星が惑星からはずされたわけなど（※ この本は本校の図書館にもあります）

このような話を聞き、子どもたちは宇宙への興味関心を深めたようです。将来、宇宙関係の科学者や宇宙飛行士が現れるかも？

以下、子どもたちの質問をいくつか記載します。

- 宇宙のはてってあるのですか？宇宙の外はどうなっているのですか？
- 宇宙人はいるのですか？
- いつか地球はなくなってしまうのですか？
- 星はなぜきらきら動いて見えるのか

また、布施さんがこちらにこられるようなことがあったら、また、お話しをしていただくようお願いしています。

6月までの出席率は

6月は、欠席が少し多いように感じていましたが、6月までのべ欠席者は36名で、出席率は、相変わらず99.9%です。すばらしい。6月まで、4年生と6年生は欠席0が続いています。今から、さらに暑くなりますが、夏風邪、食中毒等に注意して欲しいと思っています。